

2016年度に利用した圃場と2017年度に利用する圃場の理化学性の比較

No.	10	9	11	12
試料名	2016畑(東)	2016畑(西)	2017畑(東)	2017畑(西)
深さ(cm)	0-20	0-20	0-20	0-20
土色	7.5YR2/1	10YR2/2	7.5YR3/2	10YR2/3
土性	SiL	L	SL	CL
炭素(%)	6.08	6.62	6.92	6.21
窒素(%)	0.523	0.559	0.594	0.501
C/N	12.1	10.6	13.7	11.9
pH(H ₂ O)	6.00	5.90	5.98	5.93
pH(KCl)	5.14	5.06	5.10	5.05
EC(μ S/cm)	120.7	122.4	95.0	89.1
NO ₃ ppm	31.5	32.7	26.4	23.0
Bray No.2 P ₂ O ₅	43.9	40.8	35.3	38.8
リン酸吸収係数	1648	1725	1737	1655
Ca cmol _c /kg	14.5	13.4	15.2	13.6
K cmol _c /kg	1.64	1.74	1.73	1.34
Mg cmol _c /kg	1.56	1.72	1.37	1.40
CEC cmol _c /kg	23.1	23.4	23.5	21.3
塩基飽和度	76.3	72.0	77.7	76.7
水分係数	1.05	1.05	1.05	1.05
強熱減量(%)	15.7	16.1	15.5	15.3

EC, NO₃ ppm, 可給態リン酸は、2016年度の圃場が2017年度使用予定の圃場よりも高かった。これは、今年度の圃場における肥料の残存を反映したものだ。

また、pH(H₂O), pH(KCl), リン酸吸収係数, CEC においては、顕著な違いは認められなかった。

東側と西側を比べると、東側の方が色調が赤っぽく、土性は東側の方が粗粒質であった。

土壌の理化学性に関しては、東側と西側による違いはとくに認められなかった。